

# 笑顔があふれ やすらぎの あるまち うしく

茨城県牛久市長

根本 洋治



牛久市は、都心から50kmほどの茨城県南部に位置し、国際的に知られる研究学園都市つくば市や、全国花火競技大会の開催地土浦市、「予科練」の霞ヶ浦海軍航空隊があったことで知られる阿見町などと境を接しています。

昭和41年に首都圏近郊整備地帯としての指定を受けて以来、首都圏のベッドタウンとして土地区画整理事業、民間住宅造成等の住宅建設が進んだことで人口が急増し、昭和55年には4万人、昭和59年には5万人を超え、昭和61年に

市制施行、市制施行当時、5万2,829人であった人口は、オイルショック、バブル経済とその崩壊など、激動する社会経済状況の中にあっても成長を続け、現在は約8万5千人の人口を擁しています。

JR常磐線、国道6号水戸街道、圏央道を始めとする広域交通ネットワークが充実しており、特に常磐線沿線に大規模な住宅団地が広がる一方、市の西側では茨城観光百選のひとつ牛久沼に接し、東部にも豊かな自然が残り、古くから

米や野菜の生産を営んできた農村地域があります。全国的に進行している農業人口の減少や農業従事者の高齢化による後継者不足は当市も抱える課題であり、地域の農業を職業としてやりがいのある農業の振興のために牛久河童スイカ、牛久河童大根、うしく河童米などのブランド化や、地場産品を学校給食食材に積極的に使用するなどの地産地消の推進に取り組んでいます。

また、耕作放棄地の解消などを目的に平成22年に設立した農業生

産法人うしくグリーンファーム（株）では、生産した小麦を学校給食に、ぶどうを牛久産ワイン「レガメ」として販売するなどのほか、バイオディーゼル燃料の生産を行うなど、CO<sub>2</sub>削減とバイオマス産業都市構想に貢献しています。

ここ数年、平成に入って大規模な宅地開発が行われた区域で住宅用地が底を尽いた影響で転入人口が減少し、いよいよ人口減少が始まるか、という時期にあり、まちの活力を維持し、農村地域、既存団地、新設団地のそれぞれに均衡がとれた発展を目指して、地域ごとのきめ細かい施策に努めているところです。

近年、牛久市が全国的な話題でとりあげられたのは、横綱稀勢の里関（現荒磯親方）の出身地としてでした。四股名が萩原だった頃から番付の昇進と共に盛り上がっていった地元の相撲熱は、大関昇進

とその後の悲願の幕内初優勝、横綱昇進、続いての奇跡の逆転優勝で最高潮に達しました。優勝祝賀パレードを行った駅前通りは、全国から5万人のファンが詰めかけ、かつてない熱気に沸き返りました。地元の賑わいづくりに大いに貢献してくれた荒磯親方には、本当に感謝しています。これから、後進の育成などに取り組むと伺っておりますので、市民と共に応援を続けていきたいと思えます。



横綱稀勢の里関から寄贈を受けた明治神宮奉納土俵入りに使用した綱

横綱稀勢の里関の出身地という他にも有名なものがあります。その筆頭は青銅製立像世界一の「牛久大仏」でしょう。首都圏中央連絡自動車道からも高さ120メートルのお姿を望むことができず。圧倒的な迫力で心を揺さぶる牛久大仏は、車だと最寄りの阿見東ICからわずか3分で訪れることができます。

本市で大仏に並ぶ観光スポットは、浅草の神谷バーで知られる神谷伝兵衛氏が明治36年に創業したワイン醸造所、赤レンガの建物が美しい「牛久シャトー」です。残念ながらながらレストランなどの営業は昨年末に終了しましたが、平成20年に国の重要指定文化財に指定された施設の一部は、神谷伝兵衛記念館として開放されており、自由に見学することができます。この日本初の本格的ワイン醸造所として生まれた貴重な財産を、もっと多くの方に知っていただくようと、現在、日本遺産認定を目指した取



牛久シャトー神谷伝兵衛記念館

り組みを続けています。

また、本市最大のイベントである「うしくかつぱ祭り」が、本年度38回目を迎えます。祭りは昔から夏の風物詩であり、笛や太鼓の音色に誘われて夜店に並ぶわたあめや金魚すくい等に興じるのは子供たちばかりではありません。特に本市は首都圏の外延化に伴うベッドタウンとして発展の基盤が形成された都市でありますので、遠く故郷を離れて住居を構えている市民にとって、祭りは生まれ故

郷を懐かしく想いだし、また自分の住む街に対する愛着を深めていただく上で、大変重要な役割を果たしているものであります。市内に限らず、近隣市町村からも多くの皆様にご参加いただき、大変活気あふれるお祭りであり、延べ1万人を超える踊り手たちが「やっぺ、やっぺ」と元気の良い掛け声を掛け合いながら、華やかに練り歩く、河童ばやし踊りパレードは圧巻です。多くの皆さまの越しを、心からお待ちしております。豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、交通網が発達している強みを充分活かし、まちの魅力を高めていく施策展開に努めてきたことで、市民満足度調査では、90%余りの方から満足できる住み心地だとの評価をいただいております。これからも益々ご満足いただけるよう、一生懸命市政に当たってまいります。



牛久大仏

日本が人口減少時代に入り、国民生活のために、これまで築いてきた様々な仕組みが変更を迫られています。市民が行政に寄せる要望は多岐にわたり、行政が果たすべき役割についても、多くの見方、考え方があります。住民の相談に個別に向き合う行政相談委員の皆様のご活動は、このような時代において、一層必要とされている業務であり、関係機関との調整、相談者への助言など、大変ご苦労も多いことと存じます。改めて皆様のご尽力に敬意を表し、今後のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。